

平成29年度 綾瀬市立綾瀬小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	学校経営の方針	
<p>心豊かで、たくましく生きる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真心と、思いやりのある子 ・健康で、粘り強い子 ・よく考え、進んで学習する子 	<p>(1) 児童一人ひとりの個性や人格を尊重し、豊かな自己実現を図ることをめざす。</p> <p>(2) 人権尊重を基盤にした児童理解と、いじめのない明るい学校をめざす。</p> <p>(3) 個に応じた指導の充実と、確かな学力の育成をめざす。</p> <p>(4) 児童一人ひとりが安全で、落ち着いて生活できる教育環境の整備をめざす。</p> <p>(5) 家庭・地域と連携し、地域に開かれた学校をめざす。</p> <p>(6) 指導力の向上に向け、常に自己研鑽に努める教師集団をめざす。</p>	
今年度の重点目標		
<p>(1) 豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 ・思いやりの心を育む ・児童自らの自発的・自治的な活動 <p>(2) 確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識、技能の取得 ・基礎的・基本的な知識、技能を活用する学習 ・探求的な学習 ・授業での学習を支える取組 		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考え、進んで学習する子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	多くの児童が「進んで学習に取り組んだ」と評価しています。今後も、基礎基本の定着はもちろんのこと、思考力・判断力・表現力を高めるために話し合い、学び合うことを中心に据えた授業づくりに取り組めます。また、昨年度に引き続き、家庭との連携を深め、家庭学習のあり方と児童への支援の工夫について研究します。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	どの行事でも児童がめあてを持って、熱心に取り組んでいる様子が見られました。また、高学年を中心に、主体的な活動を通じて、達成感を得られた児童も多くいました。今後も、学校行事や特別活動の内容等を工夫し、更に児童が意欲的に取り組めるよう指導します。
3 児童・生徒指導	学校は、「真心と、思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。	児童は概ね友だちと仲良く過ごせたようです。来年度も引き続き「真心を込めて人と接する」「丁寧にあいさつをする」「丁寧にそうじをする」を大切に指導を行います。道徳教育や福祉体験、また、児童会活動や他学年との交流等を通して、互いに思いやる心を育む取組をします。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	約9割の児童が「学校は楽しかった」と評価しています。また、多くの児童がルールを守り学校生活を送ろうとしています。来年度は更に、自分自身の良さや児童同士が互いのよさを認め合えるような取組を充実させていきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	児童指導委員会、児童指導全体会、職員会議での情報交換により、児童指導の充実を図ってきました。来年度も児童の健全な成長をめざして、児童の実態や課題を十分に話し合っって共通理解を図り、全職員の協力体制のもと一貫した指導を行っていきます。また、来年度もスクールアンケート等により、早期に児童の実態把握を行っていきます。

6 保健管理	学校は、「健康で、粘り強い子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	多くの児童が病気やけがの予防に気を配り健康な生活を目指して元気に過ごしていますが、規則正しい生活や体力向上については十分な定着が図れていませんでした。来年度も引き続き、生活リズム大作戦や日々の指導を行い、家庭や養護教諭との連携を図りながら取り組みます。
7 安全管理, 教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	本校では、安全点検や児童への安全指導を定期的実施しています。行事としてはより実践的な避難訓練を計画したり、児童の実態に応じた参加型の交通安全教室を実施しています。学区に交通量の多い道路が多いため、交通安全への意識をさらに高めるようにしていきます。今後も内容の充実を図りながら、児童の安全を守るための取組を強化していきます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	今後も児童一人ひとりや保護者の教育的ニーズに応じた対応を検討しながら、個に応じた支援の充実を図るため、効果的な学習支援体制の確立やことばの教室、特別支援教育の一層の充実に向けて取り組んでいきます。また、支援が必要な児童・学級に対し共通理解のもと、支援体制を整えるようにしていきます。そのために、全職員で研修を受け、支援教育について、理解を深めるようにしていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	グループで話し合ったものを企画会議で検討し、職員会議で周知するという流れが定着してきました。来年度も引き続き、グループ会議・企画会議を定期的に設定し、校長の学校経営方針を受けて学校教育目標の具現化に向け各グループごとの業務を明確にして、教職員の協働体制のもとに教育活動を行っていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	来年度も学習指導や児童指導の話し合いを学年内、学校内で頻繁に行い、教職員の意識を高めるとともに、更なる指導力の向上を図ります。様々な教育課題に対応するために来年度も日程を確保し、教職員の資質の向上を図る研究・研修を実施していきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	学年会や児童指導委員会、児童指導全体会、職員会議での情報交換により児童指導の充実を図りました。来年度も児童の健全な成長を目指して、児童の実態や課題を十分に話し合っ共通理解を図り、全教職員の協力体制のもと一貫した指導を行います。
12 情報提供, 保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	来年度も「学校・学年だより」や「学級懇談会・個別面談」等の充実を図り、引き続き保護者や地域の方々に教育活動を伝える努力をしていくとともに、地域ボランティアとの連携を図ります。また、PTA活動が活発になるように、「親子ふれあい美化作業・くすのきまつり」等、保護者や地域の方々と協働する取組を積極的に行います。

【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】

- 学校評価報告書の保護者への「子どもは、意欲的に学習に取り組んでいた。」の設問で「あまり思わない」の回答が23%であるが、その理由を聞く設問があるといいのではないか。(今後検討していく。)
- 保護者への「学校は、いじめの早期発見・防止に努めていると思う。」の設問に「わからない」の解答が36%であるが、保護者が学校の取組にどう見方しているか。
- 「スクールアンケート」を保護者にも実施するとよいのではないか。学校の取組を理解してもらえる場になる。
児童の気持ちも聞く設問があるとよい。(今後検討していく)
- 地域で危険な行動等を注意すると素直に聞けない児童がいる。指導が必要ではないか。(地域で声をかけてくださる方がいることは大変ありがたい。素直に聞けるように学校では指導していく。)
- 教員の校内研究は頑張っていることがわかった。児童が授業の中で教え合っていた。自分の考えを発信していくことはよい。